

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和二年八月度 入選句（投稿総数千九百六十四句・一般投句数五百四十七句）

特選

梅雨明けて届きし新車空の色

本巢市

土川 楽人

うつとうしい梅雨の長雨。梅雨明けを見届けたように、新車が届いたという。その色は、待っていた夏空の色。太陽に映えるピカピカの新車がまぶしい。さあ、どこへドライブに行こうか。晴れ晴れとした弾むような気持ち、が伝わってくる。

月光を押し上げてゐる噴井かな

大垣市

婆 婆

大垣は水の都、の名の通り、数か所の噴井がある。八幡神社であろうか。煌々した月に光り透く水を噴き上げている様を、あたかも月光を押し上げているとみる。おみごと。たたずむ作者のシルエットも浮かぶきれいな句。

寝たきりの祖父真ん中に夏座敷

大阪府東大阪市

森 佳月

風通しの良い、青畳も匂う夏座敷。家の柱として生きてきた祖父を囲み、談笑する家族や親類。寝たきりで動けないけれど、祖父は皆の話やうれしそうに聞いたり、昔の話をしたりして輪に加わる。ときには、安心したようにうとうとしたり。祖父を中心にした家族の夏の一コマが見える。

秀逸

夏落葉風音拾ふ竹箒

神奈川県大和市

岩田 爾瑠

妻とよく気の合ひさふな金魚買ふ

東京都世田谷区

関戸 信治

秋近し工事現場の国訛り

東京都新宿区

花澤 ちいこ

通り雨濡らす草の香秋近し

岐阜市

花川 和久

少年の少し背伸びのサングラス

不破郡垂井町

北村 廣美

風音にふと立秋の勝手口

大垣市

佐藤 すみ子

猫の眼の金色に澄む極暑かな

大垣市

村田 通夫

終電車夜振の川の灯見つ

香川県高松市

西 教子

灼けつきて鉄橋の錆しづかなる

三重県津市

村山 好昭

遠泳や海とつながれる青き空

神奈川県横浜市

龍野 ひろし

入選

伐採の杉間を抜けて青嵐	不破郡垂井町	高木 治子
いつまでもラムネの音を飲む少女	東京都世田谷区	関戸 信治
何気なき会話のつづく夕端居	大垣市	宮川 浩
帰省子を母の濡れ手が迎え出る	大垣市	日比野 友子
油照り朽ちし土蔵の鬼瓦	大垣市	森川 きよ子
男坂杖に飛び散る玉の汗	大垣市	高田 雅章
神の杜朝一番の噴井汲む	大垣市	傍島 豊子
廃校の尊徳像へ蟬しぐれ	奈良県奈良市	やまとなでしこ
素直です左巻きです振り花	大垣市	高津 喜久子
明日着る浴衣広げて風通す	揖斐郡大野町	藤田 涼子

入選

夕立去り洗ひたてなる辻地藏	大垣市	早崎 美弥子
運慶の仁王の如き雲の峰	不破郡垂井町	久保田 紘義
風死すやはやりやまひのひたひたと	大垣市	佐藤 すみ子
網が出て少年が出る木下闇	三重県四日市市	後藤 允孝
わが庭の近道と言ふ梅雨のてふ	静岡県藤枝市	山本 紫苑
山姥のごとき声出す大藪蚊	養老郡養老町	松永 智志
豆蒔くや納屋に手書きの農事歴	愛知県豊田市	城山 憲三
立って寝る麒麟親子に晩夏光	各務原市	太田 美智子
真夜中の独りの世界水中花	福岡県福岡市	大津 英世
夜濯ぎや星に眩く独り言	大垣市	片山 洋紅

選者吟

八月 舞鶴沖とほきほど昏し

さち子